

伝えたい

まちの遺産

万葉の道が通る山中峠

古くから北陸と奈良・京都の都、越前と若狭を結ぶ北陸道の峠。平安時代の天長七年（八三〇）から開かれた木ノ芽峠、織田信長に仕えた北ノ庄城主・柴田勝家が改修した栃ノ木峠、さらに古く奈良時代に開かれた山中峠（海拔三八九メートル）があります。



敦賀から山越えしたり、小船で杉津や五幡に辿り着いた旅人は、元比田（敦賀市）辺りから山中峠を越えて今庄に達しました。

可敵流廻の道行かむ日は

五幡の坂に袖振れわれをし思はば（万葉集18巻）

歌意—あなたが鹿蒜の辺りの道を帰って行かれる日には、五幡の坂で袖を振ってください。

後に残る私を思ってくださいるならば。

奈良時代初めの天平十八年（七四六）、大伴家持は、二十九歳で越中守となり伏木（現高岡市）に着任しましたが、その二年後、奈良の都からの



▲山中峠の南越前町と敦賀市の尾根境

使者田辺福麻呂が訪れ帰郷する際、贈った歌です。「可敵流廻」は鹿蒜川（白野川支流）流域の地。「五幡の坂」は山中峠を指しているというのが定説で、この歌によってわかるように、峠は家持が通った以前から開かれていたのです。南越前町を通った最古の北陸道と言ってよく、万葉集に歌われたので「万葉の道」とも呼ばれています。

山中峠も今のままでは亡失されてしまうと危機感を持った有志が集まり、峠を保存しようと平成九年「万葉の道辺を探る会」を立ち上げ整備にとりかかりました。生い茂る雑草の刈払い、倒木や杉の伐採除去、古道をふさぐ孟宗竹の群落との戦いなど、一年目は二度挑戦しようやく峠に達しました。

平成十八年豪雪で、再び倒木により古道が塞がれましたが、今年六月第一回目の整備を実施、ようやく復旧しました。今後も「万葉の道」を守るための活動を続けていきます。（町文化財保護委員・山本勝士）

第3回南越前町民文化祭のお知らせ

■問合せ 教育委員会 ☎47・8005

※詳細は後日配布のプログラムをご覧ください。

河野地区	11月2日（金）	9:00～21:00	河野地区公民館	展示
	3日（土）	9:00～16:00	//	//
		9:00～正午	//	舞台発表
今庄地区	11月3日（土）	8:30～17:00	今庄住民センター	展示
	4日（日）	8:30～16:00	//	//
		12:30～16:00	//	舞台発表
南条地区	11月3日（土）	9:00～17:00	南条文化会館	展示
		13:00～17:00	//	舞台発表
		11:00～17:00	ウォーターランド南条	成人体力テストほか
	11月4日（日）	9:00～17:00	南条文化会館	展示
		13:00～16:00	//	舞台発表
		10:00～16:00	ウォーターランド南条	成人体力テストほか